

# 農業法人 株式会社 秋津野

**キャッチフレーズ** 都市と農村の交流施設 秋津野ガルテン  
(廃校舎を活用した施設で日本型GTの推進)

**キーワード** 観光 「食」の提供・活用 農林漁業体験

## 取組概要

地域住民が自ら出資し、廃校を活用したグリーンツーリズムを展開する法人を立ち上げ  
木造校舎を利用して、農家レストランや宿泊事業のほか、農業体験、みかんのオーナー制度、市民農園などの交流事業を展開

## 活動の効果

農家レストランをはじめとした交流事業による年間交流人口は約6万人となっており、和歌山大学の調査研究では田辺市周辺に年間10億円の経済効果があるという発表  
35名の雇用が創出するなど地域活性化



秋津野ガルテン外観



農家レストラン



市民農園でサツマイモ植え付け

# 美又湯気の里づくり委員会

**キャッチフレーズ** 美肌の湯が紡ぎ育む「地域まるごと6次産業化」

**キーワード** 観光 6次産業化 その他(住民主体のまちづくり)

## 取組概要

地域全戸を対象としたワークショップ等で地域の埋もれた宝である「黒食材」と「美又温泉」に着目し、「地域まるごと6次産業化」に向けた取組を展開

1次産業として「黒米」、「黒大豆」を栽培し、2次産業として黒米や黒大豆から黒米焼酎や黒豆豆腐の加工を行い、3次産業として美肌効果のある「黒食材」と美肌の湯とを組み合わせたブランド化を推進

## 活動の効果

従来 of 作物と比べて「黒米」、「黒大豆」の栽培は所得が3倍に向上

地域の宝(食材、温泉、景観、人、伝統芸能)を6次産業化させ成長していく取組は、地域の誰もが関われる取組で所得向上等の効果を実感し、地域のまちづくりの機運が高まり



地域でワークショップを開催



黒大豆豆腐と黒米焼酎



集落での黒大豆栽培

# 北庄中央棚田天然米生産組合

## キャッチフレーズ

都市との交流で「苦農」から「楽農」へ

## キーワード

自然・景観

伝統・継承

学校・企業

## 取組概要

地元小学校と連携し田植・稲刈作業を体験する「田んぼの学校」の実施

棚田撮影の写真家はじめ都市住民が参加する「棚田支援隊」を発足し、地域住民と協働で、棚田の荒廃地発生抑制を目的に天日干しコシヒカリの栽培等を実施

棚田米をブランド米として関西及び関東の米問屋に販路を開拓

## 活動の効果

地元小学校では、農を通じて地域文化や遺構を活用した他の学校にない総合学習として取り組まれ、情操教育に寄与

荒廃地発生が抑制され、都市住民と田舎との交流が向上

棚田米が安定した優位な価格で販売でき、モチベーションが向上



田んぼの学校で児童が田植え



景観再生地区の再生前と再生後の景観(手前)



景観再生地区の草刈り作業

# 社会福祉法人 E.G.F

## キャッチフレーズ

障害者が力をあわせ未来の農業を支える

## キーワード

6次産業化

医療・福祉

定住・移住

## 取組概要

下請け的な作業ではなく、本物づくりを目指し、営業に力を入れて、農作物、加工品の販売を実施

障害者の特性を生かし、メロン、イチゴ、野菜等を苗作りから収穫、加工まで各工程に障害者が関わり事業を展開

農作物は、品質が確保されたもののみ販売し、他は加工品として販売

## 活動の効果

圃場での障害者の活動を見た地域住民や農地の持ち主から、農地の管理依頼が増加

自然豊かな環境で農業に取り組むことで、精神的にも障害者の安定に寄与し、障害程度区分の改善に効果

雇用が確保され、安定した給与の下農業に従事できることもあり、市外・県外からの就職希望があり、移住者が増加



障害者による玉ねぎ収穫



障害の特性を生かした農業



オリジナルの箱で全国発送



# 特定非営利活動法人 美郷宝さがし探検隊

## キャッチフレーズ

「キレイのさと」美郷の宝の守り人

## キーワード

自然・景観

伝統・継承

「食」の提供・活用

## 取組概要

住民だけで保存が難しくなった石積みを、大学機関と連携し保全体制を構築。地元住民を講師に、学生に石積み技術の習得・継承や能郷体験を実施

天然記念物に指定されているホテルの生息環境づくり、「ほたるまつり」を地元の各団体と協力して開催

「梅酒特区」認定を受け、酒蔵及び農家民宿と連携し、試飲・購入が出来る「体験型ラリーイベント」を開催

## 活動の効果

過疎高齢化で衰退の途を懸念していた地域に、活動の結果、年間8万人の観光客が訪問

梅酒特区の認定により、Uターン、Iターンによる梅酒の製造者が増加。地域おこし協力隊の移住者も村内5人目の梅酒製造者に

農家民宿の開業や6次産業化を手がける農園、地元商工会の農山村体験交流イベントの開催など、地域に波及効果



学生に「石積み教室」



ホテルの保全、自然学習



農家民宿で「梅酒まつり」

# 農事組合法人 たどつオリーブ生産組合

## キャッチフレーズ

瀬戸内の小さな町で創った「蒼のダイヤ」

## キーワード

地産地消

6次産業化

その他(耕作放棄地再生)

## 取組概要

農業者の高齢化・後継者不足の進行などにより増加した耕作放棄地を利用し、県花・県木であるオリーブを栽培

町内企業と連携し、地場産オリーブを「蒼のダイヤ」というブランドで製品化し、県内や首都圏にて販売

馴染みのなかった町民への普及を図るため、オリーブの佃煮など新商品を開発し、学校給食やイベントを利用した普及活動を実施

## 活動の効果

ブドウと比べ手間がかからず、一定の収益性が見込めることや、ブドウとの作業競合が少ないことが明らかになるにつれ、耕作放棄地が再生され、オリーブを植栽する機運が上昇

オリーブの共同加工や、イベント開催により、消費者や飲食店、企業など異業種とのつながりが新たに構築されるなど地域の活性化に貢献。国際オリーブオイルコンテストで金賞を受賞。



再生前の耕作放棄地



オリーブを植樹した再生農地



統一ブランド「蒼のダイヤ」

# 小岱山薬草の会

## キャッチフレーズ

薬草食べて元気な町に

## キーワード

「食」の提供・活用

ボランティア

研修

## 取組概要

地域内に昔から自生する薬草の知識や料理法について、大学薬学部と連携して、地元住民、小中高生を対象に、広報紙やイベント、料理教室、出前勉強会で普及啓発

高齢者コミュニティビジネス支援のため、公園内の薬草花壇づくりや、荒廃した農園を薬草農園に変え薬草茶と薬草足湯をつくる事業を支援

薬草活用を希望する県内外の団体に対し研修の受入を実施

## 活動の効果

継続的な普及活動により、地元住民に薬草知識を持つ者が増加  
イベントへの積極的な参加によりマスコミに取り上げられることが多くなり、薬草の町として認知度が向上

県外からも研修の申込があるなど、取組が全国的に波及



薬草観察講演会



薬草花壇の整備



地元中学校への  
出前薬草料理教室

# 社会福祉法人 白鳩会

## キャッチフレーズ

農福連携で過疎化になやむ地域おこしを！

## キーワード

6次産業化

医療・福祉

女性の活躍

## 取組概要

障害者が安心して働き暮らせる場をつくるため、農事組合法人を設立し、農業を企業化(障害者に高い給与水準を確保)

農場内で牛糞等を作物肥料に使用する循環型農法を実践し、茶製造、ハム・ソーセージなどの食品加工を行い、統一ブランド名で販売を促進

鹿児島市内にアンテナショップを開設し、ジェラード等の製造・販売と共に、消費者に直結する商品開発を促進

## 活動の効果

農場経営の規模拡大・安定化で、県内はもとより県外からの就職希望者が増加

女性が働きやすい職場環境づくりが促進

イベントの開催など食品の販売を通じて、県内外の人々と交流促進



花の木牧場  
(東京ドーム20倍の面積)



職員と障がい者が共に行う  
ニンニクの植付作業



ソーセージの結束作業

# やんばる<sup>はるま</sup>畑人プロジェクト

## キャッチフレーズ

「やんばるは美味しい！」を全国へ

## キーワード

「食」の提供・活用

食育

6次産業化

農商工連携

## 取組概要

地域の農家20名がレストラン、宿泊施設、加工企業等37店舗と連携し、農産物からスパイスまで全て地元やんばる産でおもてなし  
農家と飲食店の連携により、地元保育園児に対し「植え付け、収穫、調理、食べる」までの工程を実体験  
規格外の食材を利用した付加価値の高い商品の開発  
マルシェや地域の食材を中心としたフードメニューで、地域資源の素晴らしさを実感してもらうフードフェスタを開催

## 活動の効果

新聞やTVの取材が多くなり、取組や地域資源を全国に発信  
大手コンビニエンスストアの弁当に食材が採用されるとともに、首都圏の百貨店の沖縄展のメインブースを担当



フードフェスタでやんばる食材の使用促進



春の香祭  
名護漁協と連携



やんばるスパイス商品が  
期間限定でローソンで発売

平成 27 年 9 月 30 日

## 「ディスカバー農山漁村の宝」(第 2 回選定) グランプリ及び特別賞の選定方法等について

「ディスカバー農山漁村の宝」(第 2 回選定)からの初めての取組として、以下のとおり、グランプリと特別賞を選定し 10 月に官邸で開催予定の選定地区交流会において発表するとともに、グランプリ選定に向けて「応援メッセージ」を広く国民の皆様から募集。

### 1. グランプリの選定方法について

「ディスカバー農山漁村の宝」(第 2 回選定)27 地区について、有識者懇談会委員による審査の結果、全国 9 ブロック毎にそれぞれ評価が最も高かった地区(別紙参照)を対象として、10 月 2 日から 12 日まで、政府の SNS 等を通じて広く国民の皆様から公募する「応援メッセージ」(下記 3. 参照)を踏まえて、最優良事例 1 地区を「グランプリ」として選定。

〔 北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄の  
全国 9 ブロック 〕

### 2. 特別賞の選定方法について

- (1) 地方創生や女性の活躍など、現下の重要な政策課題への対応に資するような秀でた特長を有する優良事例を「特別賞」に選定。
- (2) 上記(1)を踏まえ、「ディスカバー農山漁村の宝」(第 2 回選定)27 地区からグランプリを除いた 26 地区を対象として、10 月 2 日から 12 日まで、政府の SNS 等を通じて広く国民の皆様から公募する「応援メッセージ」(下記 3. 参照)を踏まえて、以下の 3 賞を各 1 地区選定。

インバウンドや輸出等、海外展開に取り組んでいる優良事例を「グローバル賞」

斬新な発想に基づき 6 次産業化等に取り組み、収益性に優れた優良事例を「プロデュース賞」



女性の活躍がその活動推進の大きな原動力となっている優良事例を「ウィメン賞」

### 3. 「応援メッセージ」の募集について

グランプリ及び特別賞の選定に向けて、「ディスカバー農山漁村の宝」(第2回選定)27地区の取組を広く発信する観点から、内閣官房や農林水産省、フード・アクション・ニッポン等のフェイスブック、ツイッター等のSNSを通じて、広く国民の皆様から「応援メッセージ」を募集(10月2日から12日まで)。

#### 【メッセージ例】

私が知っているこの地域の良さを紹介します！

この地域が気に入った！行ってみたい！

この地域はこんなに素晴らしい活動をしているので、私はここがグランプリを取れるように応援します！

等

### 4. 今後のスケジュール

(1) 9月30日(水)第2回有識者懇談会  
・選定地区の決定、特別賞の名称の決定 等

(2) 10月2日(金)から10月12日(月・祝)  
・政府のSNS等で「応援メッセージ」を募集

(3) 10月下旬  
第3回有識者懇談会：応援メッセージ等も踏まえ、グランプリ・特別賞の受賞地区の決定  
選定証授与式：選定27地区の代表者へ選定証を授与  
交流会：グランプリ・特別賞の発表、交流会の開催

(4) 11月以降  
選定27地区や「ディスカバー農山漁村の宝」の国内外向けPR、  
「ディスカバー農山漁村の宝」広報大使による発信、都内で開催される各種イベントへの出展促進 等

# 「ディスカバー農山漁村の宝」(第2回選定) グランプリ候補

ブロック	都道府県	市町村	地区名	活動の概要
北海道	北海道	北斗市	はこだて そだ 函館育ちふっくりんこ蔵部	寒さ等につよい米の品種「ふっくりんこ」のブランド化。
東北	岩手県	遠野市	とおの すみた 遠野・住田ふるさと体験協議会	首都圏企業マンヘ民泊を提供し、企業研修を実施。また、インバウンド対応の農家民宿では、受入家庭向けの英語教室も実施。
関東	埼玉県	秩父市	かし くに すいしん きょうぎかい お菓子な郷推進協議会	自生するカエデからシロップを採取し原料として食品・飲料を製造。林業(植林)、食品加工、商業の協働による6次産業化。
北陸	富山県	射水市	しんみなと ぎょぎょう きょうどうくみあい 新湊漁業協同組合	魚さばき教室、セリ見学、カニ給食(ベニズワイガニ1匹プレゼント)等を通じた魚食普及活動。
東海	岐阜県	下呂市	まぜ ちほう しぜんこうえん 馬瀬地方自然公園づくり委員会	フランスの制度を取り入れたグリーン・ツーリズム。鮎、伝統漁法、地域を網羅する遊歩道等を活用した観光ツアー等を実施。
近畿	和歌山県	有田市	かぶしきがいしゃ そうわ かじゅえん 株式会社 早和果樹園	ICT農業を活用した高品質の有田みかんの生産と加工品の開発、輸出等による地域農業の活性化。
中国	山口県	萩市	しゃかいふくしほうじん いー じー えい 社会福祉法人E.G.F	障がい者が「本物」の農産物生産を目指し、農作業各段階に従事。6次産業化を通じ品質に応じた商品展開。
四国	徳島県	吉野川市	とくていひえいりかつどうほうじん みさと たから 特定非営利活動法人 美郷宝さがし探検隊	急斜面の石垣「石積み」の保全・体験活動や、ほたるの鑑賞会、特区認定された梅酒等を活用した交流活動。
九州・沖縄	沖縄県	名護市	はるさー やんばる畑人プロジェクト	地元の農家20名とレストラン・加工業など37者が連携し、地元やんばる産で、6次産業化、食育、フードフェスタ等を実施。



(参考)

「ディスカバー農山漁村の宝」有識者懇談会委員

あん・まくどなるど 上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授

今村 司 (株)NPBエンタープライズ代表取締役社長

織作 峰子 大阪芸術大学教授、写真家

田中 里沙 (株)宣伝会議取締役副社長兼編集室長

東谷 望史 馬路村農業協同組合代表理事組合長

永島 敏行 俳優、(有)青空市場代表取締役

(座長) 林 良博 国立科学博物館館長

三國 清三 オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ

向笠 千恵子 フードジャーナリスト、食文化研究家、  
郷土料理伝承学校校長

横石 知二 (株)いろどり代表取締役社長

(五十音順：敬称略)